

くおんじ手帖

・ お寺とわたしのつながり方 ・



久遠寺の紹介 (P2)



法事について (P6)



葬儀について (P10)



お墓について (P14)

久遠寺について



身近で安心できる 心の拠り所として

久遠寺は、かつての寺院が地域の心の拠り所や文化の発信地であったように、現代においても人々にとって身近で安心できる場所でありたいと願っています。高層ビルに囲まれた街の中であって、久遠寺は3つの役割を担い、ご縁を大切にしながら歩んでいます。

- ☸ 自分自身と向き合う“聞法の道場”であること
- ☸ 悩みに寄り添う“相談の場”であること
- ☸ 共に文化を育む“発信の場”であること

久遠寺の3つの役割

「すみません」「ありがとう」「おかげさま」を伝え合い、笑顔が生まれる、そんな安心の寺であることを目指しています。



住職 高山信雄

親鸞聖人のお念仏の教えを伝える法務に従事すると同時に、認定NPO法人おてらおやつクラブ理事・認定NPO法人LivEquality HUB理事として「子どもの貧困」等の課題解決に取り組む。地域の再生と交流を目的に、毎年「新栄祭」を主催し、実行委員会会長を務める。また子どもたちが通う学校ではPTAの一員として教育課題にも向き合い、児童・保護者・教職員をつなぐ役割を担う。公私ともに社会・地域・教育の現場をつなげる活動を幅広く展開している。

日々のお参り～いつでもお参りください～

境内には四季折々の花が咲いており、ベンチでゆっくりしていただけます。また都度地域イベントや定期イベントも開催中です。LINEやInstagramでイベントの情報や久遠寺の日常をお伝えしています。お寺では季節ごとに発行する「寺報」も配布しています。どうぞご覧ください。



公式 LINE



Instagram
@kuonji1610



久遠寺の歩み もともと伊勢国長島にあったお寺が幾度かの移転・改称を経て、1610年清州越しにて浄光上人が現在の地へと移す。第九世こううん昂運上人の代に「賢隆山久遠寺」と名を改める。

1945年の名古屋大空襲で境内は全焼したが、1953年に第18世貞親上人・京子坊守、ご門徒の尽力により本堂を再建した。2005年には第19世元智前住職のもと旧庫裡を建て替え、歓喜館（新庫裡）と正門・参道・外壁を整備した。



久遠寺の宗派|真宗高田派について 久遠寺が属する真宗高田派のご本山は三重県津市にある専修寺。宗祖親鸞聖人の教えを受け継ぐ寺院で、全国に約600の末寺が存在する。境内には御影堂・如来堂（ともに国宝）をはじめとする多数の伽藍と宝物を有しており、毎年1月9日～16日の報恩講「お七夜」では多くの参拝者が集まる。

季節の法要

朝夕のお勤めはもちろんのこと、亡き大切な方々へ想いを寄せる法要の機会を以下の日程で行なっています。ご一緒に墓前や納骨堂でお勤めしましょう（軽装可・予約不要）



		平和公園久遠寺墓地 にて読経	久遠寺納骨堂 にて読経
1月10日	お正月	9時～11時	15時～17時
3月お中日	春彼岸 ^{※2}	8時半～12時	15時～17時
8月10日	お盆 ^{※1}	7時半～11時	15時～17時
9月お中日	秋彼岸 ^{※2}	8時半～12時	15時～17時

※ 時間は変更になる可能性もございます。最新情報は久遠寺WEBサイト「行事のご案内」をご確認ください。

※1 8/11～16にはご連絡いただいたお檀家様のお宅へお盆参りに伺います。初盆の方は7月後半～8月中旬で調整します。

※1・※2 お彼岸・お盆・命日等はご自宅やお墓での個別法要も可能です。



行事のご案内

10月 報恩講

親鸞聖人のご命日をご縁に、感謝の気持ちでお念仏を称える大切な法要です。近隣のお寺さまや布教使の先生をお招きして、お勤めやご法話をお聞きます。仏さまや親鸞聖人の恩に報いる、心を見つめるひとときです。どなたでもご参加いただけますので、ぜひお参りください。

法事について

ご恩に気づき、 感謝を深める時間のために

法事は、大切な故人を偲び、感謝の気持ちをあらためて気づく時間です。
「今の私はあなたのおかげで頑張れている」と、心の中で語りかけることで、
故人とのご縁やご恩に気づかされます。
仏さまの慈しみを感じる、あたたかいひとときとなれば幸いです。

法事のタイミング

一般的には、以下のような節目の年に勤められます。実際には、家族や親族が集まりやすい日(主に土日)に都合を合わせて勤めることが一般的です。

しじゅうくにち
四十九日: 本来は命日を含めて49日目(=満中陰/忌明け)に行います。
いっしゅうき
一周忌: ご命日からちょうど1年目に勤めます。
さんかいき
三回忌: 亡くなられて2年目のご命日に勤めます。三回忌より、「数え年」に倣います。
ななかいき じゅうさんかいき じゅうななかいき にじゅうさんかいき にじゅうななかいき さんじゅうさんかいき
七回忌、十三回忌、十七回忌、二十三回忌、二十七回忌、三十三回忌:
以降は数年ごとの節目に行います。



これらの法要は、必ずしもすべてを営まなければならないというわけではありませんが、節目にあたり、ご家族やご縁のある方とともに故人を偲び、手を合わせるひとときとなれば幸いです。なお、ご事情により法要を執行できなかった場合でも、後日にお勤めいただけますので、どうぞご安心ください。



法事ってどんなことをするの？

- 1 浄土三部経(阿弥陀さまの願いと極楽浄土への道を説いたお経)を読み上げます
- 2 お焼香を順番に進めていただきます
- 3 正信偈/文類偈(親鸞聖人の言葉)をみなさんと一緒にお唱えします
- 4 最後に住職より法話をお話します

法事の準備

✓ **日程**…ご命日を目安に、ご希望の日をお寺へご連絡ください。住職の予定と調整いたします。

✓ **人数**…お一人でも、ご家族やご親族とでも構いません。施主様のご意向でお決めください。

✓ **服装**…仏さまに手を合わせる大切な場です。喪服でなくても構いませんが、清潔感のある服装を心がけましょう。

✓ **場所**…ご自宅・お寺・会館など、いずれの場所でも勤められます。



持ちもののリスト(四十九日法要についてはP13をご覧ください)



☐ ご位牌



☐ 遺影



☐ お骨

その他の持ちもの

☐ お布施

☐ 念珠(お数珠)

☐ おそなえ

☐ 供花*

☐ お茶菓子

*お寺では法要にあたり、荘厳用のお花をご用意しております。ただし、故人がお花をお好きであった場合などには、ご希望により花店からお寺へ直接お送りいただいても差し支えありません。

✓ **食事の注文について** ご法事の後に、歓喜館（庫裡座敷）にてお食事をしていただけます。下記店舗に日時、人数、ご費用、場所が久遠寺であることを予めご連絡ください。下記以外の店舗で手配いただいても構いません。

合資会社せき山（仕出し専門店）

〒461-0038 愛知県名古屋市東区新出来 2 丁目 1-40
電話：052-935-2636 FAX：052-935-2683



？ 久遠寺に行ったことがないのですが…

ぜひ一度ご来寺ください。住職や寺族とお会いいただくだけでなく、お寺の場所や雰囲気、日頃の活動を知っていただくことで、より身近に感じていただけます。その出会いが、ご先祖や仏さまを大切に思う心へとつながります。

？ どんな時にお寺に行くとよいですか？

お盆やお彼岸、報恩講などの年中行事は、皆さまと共に御参りできる良い機会です。ご都合が合わない場合は無理をなさらず、別の折にご縁をいただければ嬉しく思います。日常の中でふと思いついた時に手を合わせに来ていただくのも大切です。

？ お供えものは何がよいですか？

果物やお米、お菓子など身近なものが多くお供えされています。特別なお品でなくても、気持ちを添えていただくことが大切です。いただいたお供えは「おてらおやつクラブ」や地域で有難ういただき、ご縁を広げています。

？ 相談がありますが、住職は忙しいと聞きます。いつ伺えばよいですか？

事前に LINE・メール・電話などでご連絡いただければ、予定を合わせてお待ちしております。

？ 年会費や寄付は必要ですか？

年会費や継続的な寄付はありません。お墓を承継される場合は護持費のご協力をお願いしていますが、それ以外は行事や法要の折に無理のない範囲でお心を寄せていただければ十分です。

？ お寺を移る場合、費用はかかりますか？

特別な費用はいただいておりません。ただしお墓がある場合は墓じまい等の手続きが必要です。石材店との調整も含まれますので、事前にご相談ください。大切な先祖代々のお墓を無縁仏にしないためにも、必要な手続きを整えていただければ今後の安心につながります。

＜おんじ
Q and A



🌀 お布施について

布施とは「大切なものを差し出す、手放すこと」です。

今限りあるものを自ら喜んで手放すことで新たな幸せに気づかせていただく行です。仏縁に喜ばれたお気持ちや亡き人への感謝のおこころをお包みくださいませ。また喜捨して下さった布施は、仏さまの教えをお伝えするための寺の護持ならびに社会貢献に活用いたします。布施のお手渡しが難しい場合、振込先のご案内もできますのでご連絡くださいませ。

仏教における「お布施」とは？

仏教では、「お布施」は善き行い（功德）であり、また、自らの心を整える修行のひとつでもあります。

「お布施はお気持ちで…」とお伝えすることがあります。それは、お布施の本来の意味が、見返りを求めずに、仏さまや他の人のために差し出す「施し」だからです。

お布施に金額の決まりはありません

近年では、金額を提示しているお寺もありますが、久遠寺では昔からの教えにならい、「お気持ちで」と申し上げています。それは、無理のない範囲で心をこめて差し出していただくことこそが、尊い布施の精神だからです。「安くてよかった」「多すぎて負担になった」ではなく、「気持ちよく供養できた」「仏さまに手を合わせる事ができた」と感じていただけることが、私たちにとっても何よりの願いです。

御布施

葬儀について



いざという時に向けて

大切な方との別れは、いつか必ずやってきます。

後悔のないお別れにするためには、

前もって家族で話し合っておくことが大切です。

どこで、どのように送りたいのか——希望を伝え合いましょう。

万が一の時は

身内にご不幸があった際は、**まずお寺にお電話ください**。つながらない場合は留守番電話にご用件を残していただければ、折り返しいたします。その後、葬儀社にも連絡してください。葬儀社やご遺族から再度お寺へご連絡をいただき、日程の調整を行います。

葬儀社の選び方

葬儀社によって、費用や対応、規模などに違いがあります。大切な方の人生をしめくくる一度きりのご葬儀ですので、ご希望に合うところをお選びください。葬儀社がわからない場合はご相談ください。



インターネットの葬儀社紹介サイトでは、菩提寺を指名できなかったり、満足のいく葬儀にできないことがあります。葬儀社の選択に悩む場合はご相談ください。

お寺での葬儀について

久遠寺の本堂で葬儀を行えます。

仏さまの前で、心静かに、故人らしい葬儀を勤めます(宿泊可)。葬儀会館のように使用料がかからないので、葬儀費用をおさえることができますので、まずは住職にご相談ください。



遠方にお住まいの方

遠方の場合でも、住職が伺える範囲であれば出向きます。難しい場合は、高田派の僧侶をご紹介することも可能です。現地の葬儀社を通して僧侶を依頼されても問題ありません。また、久遠寺で葬儀をご希望の方は、火葬後にあらためてお骨とともにご来寺いただくことも可能です。



法名について お葬式や法要で耳にする「法名」。浄土真宗では、戒律を守る名前としての戒名ではなく、仏さまの弟子となった証として授けます。故人が仏さまの教えに出会い、阿弥陀さまの本願を信じて生きられた姿や、生前の歩みを大切にしながら、その方の俗名の一字や生き方を映す文字をいただきます。

高田派では「釋」の字を冠し、「釋○○○○信士(信女)」が基本で、お寺への長年のご奉仕に感謝し「○○院」をお授けすることもあります。また、俗名がご両親の願いを込めた名前であるのに対し、法名は仏弟子としての新たな名です。費用については世間で高額な印象もありますが、久遠寺では安心してお受けいただける範囲でご案内しておりますので、どうぞご相談ください。

法名 院号あり

釋
○○○○信士(信女)

○○院
釋
○○○○居士(大姉)

葬儀とその後の流れ

最初の準備 ①



① ご臨終 または 事前に備えて

大切な方が亡くなられた際、あるいはその兆しがある場合は、まずお寺へご連絡ください。

② 葬儀社への連絡

ご遺族から葬儀社へご連絡ください。当寺と信頼関係のある葬儀社をご紹介しますことも可能です。



③ 打ち合わせと日程決定

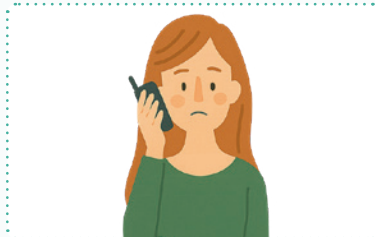
喪家・葬儀社・お寺で日程や会場についてご相談し決定します。

最初の準備 ②



① 枕勤めと法名

故人さまの安置先へお参りに伺い、旅立ちの支えとなるお経(枕経)をお勤めします。その際、お話をうかがい、故人にふさわしい法名をお授けします。



② 親戚へのご連絡

ご親族やご縁の方々への連絡をお願いします。家族葬とするかどうかも、この段階でご判断ください。

通夜と葬儀



① 通夜のお勤め

通夜では、ご縁ある人々が集い、故人と語らいを持ちながら過ごします。読経とお焼香を中心に、静かにお別れの時間を持ちます。

② 葬儀

葬儀は、故人を仏さまとしてお送りする大切な儀式で、仏弟子となる帰敬式や棺の前でのお勤めも行われます。火葬後には、還骨勤行を行い、新たなつなかりを築く始まりの場とします。

③ 初七日法要

続いて営む初七日法要は、亡くなって七日目の節目にあたり、故人が仏さまとなって私たちを見守る存在となったことを受けとめる機会となります。現在では、火葬場から戻ってから勤める還骨勤行と併修することが一般的です。

その後



① 忌明け法要(四十九日法要)

忌明け法要は、故人が仏さまのもとへ生まれたご縁を再確認し、家族親戚で仏さまの教えを聞く大切なお勤めです。日時、場所等、ご希望に応じてお勤めいたしますので、どうぞご相談ください。

持ちもの

☐ 白木のお位牌 ☐ お位牌



☐ ご遺骨 ☐ 遺影 ☐ おそなえ
☐ 供花* ☐ 念珠(お数珠) ☐ お茶菓子

* お寺では法要にあたり、すでに荘厳用のお花をご用意しております。ただし、故人がお花をお好きであった場合などには、ご希望により花店からお寺へ直接お送りいただいても差し支えありません。

お墓について



それぞれの想いに 寄り添う安心と供養を

久遠寺ではそれぞれの想いや悩みにお応えするために、
3つのお墓をご用意しています。



境内納骨 あかり御堂

久遠寺の中にある、木のぬくもりと柔らかな光に包まれた納骨堂です。



永代供養墓 まどかの丘

久遠寺がご縁に代わって永代にわたりご供養するお墓です。平和公園内にあります。



平和公園 久遠寺墓地

平和公園内にある久遠寺の一般墓です。約 270 基のお墓があります。

お彼岸やお墓参りの時は住職が読経します。詳しくはP5「季節の法要」をご覧ください。

納骨のタイミング

納骨の時期に決まりはありませんが、多くの方は四十九日や一周忌などの法要の節目にあわせて行います。ご家族のご都合や気持ちが整ったタイミングで大丈夫です。迷われたときは、お寺にご相談ください。



お墓の引き継ぎ方

次の世代へお墓を引き継ぐことを「承継」と言います。
通常は、家族の中から一人が「承継者」となり、お寺や霊園にそのことを伝えて手続きをします。これからもお墓を大切に守っていくための大事な手続きです。

お墓を承継できる人

お墓の承継は親族であれば基本的にどなたでも可能です。
例えば、長男でなくても、娘さんやお孫さん、甥・姪の方などでも承継できます。
大切なのは、お墓を大切に思ってください、継続して供養していただくことです。

改葬・墓じまいについて

改葬・墓じまいとは、お墓に納められているご遺骨を別の場所へ移したり、お墓を閉じて更地に戻すことをいいます。たとえば、遠方のお墓を自宅近くに移す場合や、個別のお墓から納骨堂・永代供養墓へ移す場合などが該当します。

改葬・墓じまいの流れ

- 1 ご遺骨の移動先を決める(納骨堂や永代供養墓など)
- 2 現在のお墓の管理者へ連絡・承諾を得る
- 3 撤去日に遷仏法要を勤め、お骨上げを執り行う。
- 4 移動先の寺院や霊園に連絡し、お骨を納める

お墓についての相談先

有限会社光徳石材 〒465-0017 愛知県名古屋市名東区つつじが丘601番地
電話：052-773-1480



久遠寺へのアクセス



- 法事の際は、東口の正門からお入りいただき、本堂へお上がりください。
車椅子の方などは庫裡入り口から入れます。事前にご連絡ください。
- 普段の訪問時は月極駐車場の向かいにある庫裡の玄関からお越しください。

駐車場のご案内

1	2	3	5	6	7	8	9	10	11	12	13	15	16	17
18	19	20	21	22	23									
32	33	35	36	37	38									
						25	26	27	28	29	30	31		
						39	40	41	42	43	45	46		

境内の北側、道を挟んだ「光徳駐車場」に寺専用スペース(6台分)があります。

☎ 駐車番号:32・33・35・18・19・20

☎ 駐車場左側(西側)に並んでいます。

駐車後は、寺の壁沿いに歩き、右に曲がると正門があります。

久遠寺への連絡方法

日時の確認ミスなどを防ぐため、LINEかメールでのご連絡を薦めています。

📱 右上のQRをスマホで読み込んでください。

✉ kenryuzan-kuonji@nifty.com

☎ 052-241-5231 (法務中は出られないことが多いため、留守電にお名前とご用件を) お願いします。折り返しご連絡いたします。

